

うららかな早春の似合う街

川辺の梅林も  
咲き初めて、



こんにちは、あずまです。今日は北越谷周辺を散策してきました。ここは「越谷梅林公園」。約2万㎡の敷地に約240本の梅が植えられています。3月上旬には2日間にわたり「梅林公園梅まつり」が行われ、茶会や甘酒のサービス、草花の販売などがあるそうです。(MAPの㊤)

今回の登場人物



ザリナ

貿易会社に勤める  
マレーシア人。留学生として来日した大学時代からのあずまの親友。



業平あずま

業平家の長女。母親が経営する小学生向けの英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



北千住から区間準急で5駅目、20分ちょっとで『北越谷駅』に到着します。梅の季節は「越谷梅林公園」、桜の季節は元荒川堤への最寄り駅ともなっています。

北越谷

(きたこしがや)

昔は「水郷こしがや」といわれたほど、豊かな水に恵まれた越谷市の「北越谷」。もちろん現在は、東武スカイツリーラインが走る近代的に発展した街ですが、それでもなお、元荒川が中央を縫うように流れ、広々と開けた自然風景や史跡の数々に出会えます。特に今、その河畔では「越谷梅林公園」の梅が鮮やかに咲きそります。清々しい花の色や香りに誘われて、街並み全体がうららかに明るい。久しぶりに還ってきた春のきざしが、私たちを迎えます。





観梅を楽しんだあと、今度は駅の東側へ。ここは「kou-sha」というカフェ。ランチとバター不使用のケーキをいただきました。併設された陶芸工房では器と古家具も扱っています。サービスも最高でした。陶芸体験もできるようです。(MAPの㉔)



越谷梅林公園に向かって、元荒川堤を歩きました。約2kmにわたって桜並木が続く、絶好のお花見スポットでもあります。右手に宮内庁埼玉鴨場の緑が広がり、その先に梅林公園が見えてきました。(MAPの㉕)



長い参道を行くと樹齢250年、株回り7mの藤があり圧巻です。社殿裏の社叢には、スタジイ、ヤキ、ヒノキなどが群生しています。境内にはまた、江戸時代の国学者、平田篤胤の仮寓跡「松声庵」があります。(MAPの㉖)



平安中期に創建されたという越谷の総鎮守「久伊豆神社」です。境内の狛犬の足にはワラが幾重にも結ばれています。祈願して結ばば、悪所通いの家族や行方不明のペットが戻ってくる御利益があるそうです。(MAPの㉗)

## 風流に桜堤をたどって ふくいくと花咲き乱れる梅林へ。

まず「北越谷駅」西口を出て、元荒川の堤に向かいます。広々と開ける土手の景観は、桜堤通りと呼ばれるように桜並木で有名なのですが、それはまた次の機会のお楽しみ。今回は、その先にある「越谷梅林公園」まで、梅の花を愛でに行きましょう。

この越谷梅林のある一帯は、古くから知られた梅の名所。その名残りを今に残すため、越谷市が整備したものです。敷地は広く約2万平方メートル。園内には白、紅、薄紅、一重、八重…と約240本の梅の木が植えられ、見事に咲き誇ります。これに近くの「北越谷第五公園」や、ご近所の庭を彩る梅の木を加えると、その数はおよそ600本にのぼるとか。凛とした優美な花々に包まれて、まるで別世界に遊ぶような気さえしてきます。しかも「宮内庁埼玉鴨場」(非公開)と隣接しますから、あたりは緑深く閑静。自生する草木の表情や鳥の声など、スケールの大きい河畔の風景に癒されます。なるほどここは、水の郷・花と自然の郷なのです。

もともと北越谷一帯は、武蔵こしがや、時代の面影を色濃く残す土地柄。なだらかな平野は、「新方川」「逆川」など、豊かな水源に囲まれています。なかでも「元荒川」は大きな存在です。かつて荒川の本流だったその流れは、今もいわばランドマーク。町中を大きくカーブして、梅林のような自然環境を潤し、市街にも趣をそえていきますから、散策の道案内役にもなってくれます。





ここは「天獄寺」。開山は1478年、珍しい二階建ての山門があります。徳川二代将軍秀忠、三代将軍家光は狩猟の際にこの寺に立ち寄ったそうです。十月の最終日曜には、人形供養が行われます。(MAPの⑥)



花田苑に接してあるのが、日本文化伝承の館「こしかや能楽堂」です。この能舞台は天然木曽檜を使用した見事なもの。能楽体験教室も開いているようです。今回は和の文化にたくさん接することができ、ザリナも満足そう。(MAPの④)

ここは越谷アリタキ植物園。日本はもちろん、世界各地から集めた珍しい木がいっぱい。この季節に見頃のツバキは、177種類・約400本も植えられています。ボランティアガイドによる解説(約1時間)もありますよ。

(MAPの⑤)



新宮前橋バス停から「花田循環」のバスに乗って、「花田苑」にやってきました。約2万1千㎡の迴遊式池泉庭園です。松・桜・楓など約24本の木が植えられ、江戸時代のもを再現した長屋門や茶室も備えています。(MAPの③)

時を超え、歴史の杜を歩いたり！  
すてきなカフェを見つけたり！

元荒川堤が東武鉄道の鉄橋をくぐるあたりからは、同じ北越谷駅でも東口界隈。商店や住宅が続く街並みには、社寺が点在し始めます。

駅の近くにある「大沢香取神社」は、古くから町内の人々を見守り続けてきた鎮守様。拝殿の背後にある本殿に施された見事な彫刻は、江戸浅草の名匠の作ですから必見です。

一方、越谷の総鎮守となれば、やはり「久伊豆神社」の名があげられます。創建は平安中期とされますが、江戸時代には徳川将軍家が参拝したことでも知られます。元荒川前から始まる参道は長く深く、樹々の繁る境内は広く大きく、池に姿を映す樹齢250年の大藤とも出会えます。面白いのは、ワラで足を巻かれた狛犬があること。ここには、家出したり家に寄りつかない者への家族の祈願が込められているそうです。それにしても、この界限は大きな杜のようです。他にも由緒ある「天獄寺」や、貴重な越谷の自然と触れ合える「越谷アリタキ植物園」などが共生するように集まっています。興味は尽きません。

自然を人の美意識で洗練させた日本庭園「花田苑」も、ぜひ訪れたい所。造園技術を駆使した美しさには心を動かされます。隣接する「こしかや能楽堂」の佇まいと合わせ見ると、自然と文化は切り離せない関係にあると感じます。

さて、歩き疲れたらひと休み。すてきなカフェも見つけました。おいしいコーヒーやランチと、陶芸工房やアンティークまである小空間。自由な発想には、この街の新しい楽しさを感じます。





「大沢香取神社」は安産石や縁結びの銀杏があるパワースポットとして有名です。(MAPの①)



「kousha」でランチにいただいたセンキヤハン。鶏肉のオリーブ煮込みのスープがかかっています。



**北越谷データファイル**

〈梅林公園梅まつり〉・・・●交通=北越谷駅西口徒歩20分 \*開催期間中は北越谷駅西口から無料シャトルバス運行 ●開催日=3月9日(土)・10日(日) ●開園時間=10:00~15:00 ●入園料=無料 ☎梅林公園梅まつり実行委員会(大袋地区センター) 048-975-3952  
 〈越谷アリタキ植物園〉・・・●交通=北越谷駅東口徒歩20分 ●開園時間=9:00~16:00(4/1

~9/30は~17:00) \*入園は閉園時間の30分前まで ●休園日=月曜(祝日の場合は、翌日)、年末年始(12/29~1/4) ●入園料=大人(高校生以上)100円/子ども(小・中学生)30円/未就学児無料 ☎越谷市都市整備部公園緑地課 048-963-9225  
 〈花田苑〉・・・●交通=北越谷駅東口徒歩30分、越谷駅西口から「花田循環」または「市立図書館」行きバスで「花田苑入口」下車徒歩3分

●開園時間=9:00~16:00(4/1~9/30の平日は~17:00、土日祝日は~19:00) ●入園料=100円(未就学児無料) ●休園日=年末年始(12/28~1/3) ☎財団法人越谷市施設管理公社 048-962-6999 (カフェ kousha)・・・●交通=北越谷駅東口徒歩10分 ●営業時間=11:30~18:00 ●定休日=日曜・月曜 ☎048-945-4910